

ぐんま緑の県民基金事業

～みんなの森をみんなで守ろう～

平成 30 年度

実 施 報 告 書

(案)



令和元年 月

群馬県

も く じ

●はじめに	1
●目指すべき目標	1
●期間	1
●平成30年度ぐんま緑の県民基金事業の総括	2
●平成30年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要	3
○Ⅰ 水源地域等の森林整備	4
○Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進	9
○Ⅲ 市町村提案型事業	12
○Ⅳ 制度運営	17
○Ⅴ ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿	21
○Ⅵ 資料集（別冊）	

○ はじめに

群馬県は、県土の3分の2を森林が占めています。

豊かな水を育み、また災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくため、県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税」を平成26年4月から導入し、様々な施策に取り組んでいます。

○ 目指すべき目標

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化などにより放置され、荒廃が進む森林の整備を進めるため、また、森林を取り巻く新たな課題に対応するため、次の目標に向けて施策を進めます。

● 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり

● 里山・平地林等の森林環境を改善し、
安心・安全な生活環境を創造

○ 期間

● 第I期事業期間 5年間(平成26年度から平成30年度)

● 第I期課税期間 5年間(個人:平成26年度課税(平成25年所得分から))
(法人:平成26年4月1日以降に終了する事業年度分から)

平成30年度ぐんま緑の県民基金事業 総括

ぐんま緑の県民税評価検証委員会は、税の使途の透明性・公平性を確保し、事業内容の検討、実績評価・効果検証を行うため、平成26年に設置され、平成26年度に3回、平成27年度に3回、平成28年度に2回、平成29年度に3回、平成30年度に6回、計17回の委員会を開催し、ぐんま緑の県民基金事業の執行状況や効果について検証・評価を行ってきました。

□ ぐんま緑の県民税評価検証委員会の総括意見

平成30年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要

財源

【収入】基金(基金残高・税込、寄附金、運用益、諸収入)
1,237,966千円

(内訳)・基金残高378,743千円・税込858,703千円
・寄附金 328千円 ・運用益 143千円 ・諸収入 50千円

使い道

【支出】ぐんま緑の県民基金事業 913,025千円
※繰越として実施する事業 255,566千円

I 水源地域等の森林整備 709,852千円 【林政課】

(内訳) ・平成29年度繰越事業296,683千円
・平成30年度事業 413,169千円 ※平成30年度繰越221,306千円

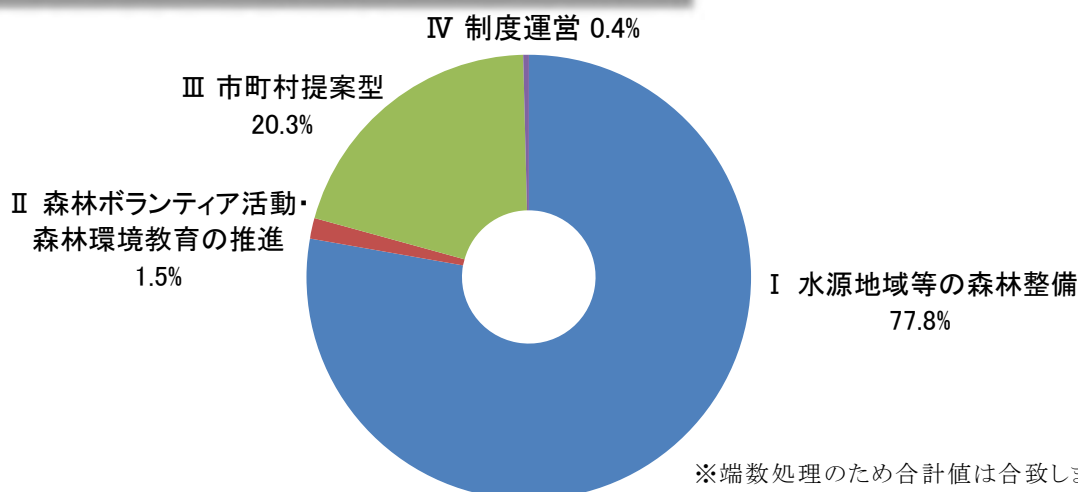
II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進14,084千円 【緑化推進課】

III 市町村提案型事業 185,770千円 【林政課】

(内訳) ・平成29年度繰越事業 2,512千円
・平成30年度事業 183,258千円 ※平成30年度繰越34,260千円

IV 制度運営(普及啓発、評価検証) 3,318千円 【林政課・林業試験場・税務課】

平成30年度総事業費に占める各事業の割合



I 水源地域等の森林整備

1 概要

● 条件不利地森林整備

地理的、地形的な条件により林業経営が成り立たず放置されている条件不利な森林を対象として、間伐などの森林整備を実施します。

● 水源林機能増進

市町村が管理する簡易水道等の上流部の森林であって、水源涵養機能等の低下が懸念される森林を対象として、間伐などの森林整備を実施し、水源涵養機能の増進を図ります。

● 松くい虫被害地の再生

松くい虫被害木が放置され、笹や竹が繁茂した森林を対象として、コナラやスギなどを植栽し、新たな森林へ再生を図ります。

2 事業の流れ

① 区域調査委託

事業区域の検討や森林所有者の調査を実施し、判明した森林所有者に対して、事業説明や実施に関する承諾を得ます。



② 実施計画調査委託

森林所有者から承諾を得た森林を対象に、事業の実施区域の測量や標準地調査を実施します。



③ 森林整備の実施

調査結果を基に間伐等の森林整備を実施します。



3 整備イメージ

現状

- ・手入れがされず、公益的機能が低下した森林
- ・林内は暗く、下層植生が乏しい



- ・間伐の実施により、林床に光をあてて、下草などの下層植生を回復させる



将来

- ・下層植生が回復し、公益的機能の高い森林へ移行



4 実施状況

【平成30年度の実績】

709,852千円

(内訳) 平成29年度繰越事業 296,683千円
 平成30年度事業 413,169千円 (事務費4千円含む)
 計709,852千円 ※平成30年度繰越事業221,306千円

○条件不利地森林整備

・区域調査

H29 繰越: 73ha
 H30 実績: 246ha
 (R1～繰越: -ha)

・実施計画調査

H29 繰越: 265ha
 H30 実績: 160ha
 (R1～繰越: 26ha)

・森林整備

H29 繰越: 184ha
 H30 実績: 329ha
 (R1～繰越: 51ha)

○水源林機能増進

・区域調査

H29 繰越: 45ha
 H30 実績: 829ha
 (R1～繰越: -ha)

・実施計画調査

H29 繰越: 93ha
 H30 実績: 85ha
 (R1～繰越: 313ha)

・森林整備

H29 繰越: 214ha
 H30 実績: 153ha
 (R1～繰越: 267ha)

○松くい虫被害地の再生

・区域調査

H29 繰越: -ha
 H30 実績: -ha
 (R1～繰越: 9ha)

・実施計画調査

H29 繰越: 7ha
 H30 実績: -ha
 (R1～繰越: 9ha)

・森林整備

H29 繰越: 18ha
 H30 実績: 74ha
 (R1～繰越: 11ha)



着工前



完成

条件不利地森林整備 (藤岡市)



着工前



完成

条件不利地森林整備 (みなかみ町)



水源林機能増進（南牧村）



水源林機能増進（高山村）



松くい虫被害地の再生（渋川市）地拵え・植栽



松くい虫被害地の再生（桐生市）地拵え

5 成 果

- ・ 平成30年度内に、平成29年度繰越予算分として415.72ha、平成30年度予算分として556.57ha、計972.29haの森林整備を実施しました。
- ・ 第2期に向けて計画的な森林整備を推進するため、1193haの区域調査(平成29年度繰越事業118ha、平成30年度事業1075ha)を優先して実施した結果、約532haの森林について協定が締結され、森林整備の準備が整いました。
- ・ 調査を先行して行い、森林整備事業の早期発注に努めたことにより、繰越額の減少に繋がってきています。

6 課題・方向性

- ・ 事業を進める中で、承諾を得やすい森林所有者や大面積所有者の森林から整備を進めてきたことから、整備を実施すべき森林について下記の課題が生じています。

- ① 不在村所有者や非森林組合員、所有者不明の森林の割合が高くなってきている
- ② 事業実施箇所が小規模分散化し、森林所有者数も増えている
- ③ ①、②の理由から区域調査における所有者及び境界の確定、実施計画調査においては小規模分散化したことによる境界・区域測量業務に多大な時間を要している

このため、以下の取組により事業実施箇所の集約化を進め、実施計画調査における測量業務及び森林整備の効率的な実施に努めます。

- ① 現在市町村で整備している林地台帳の活用
 - ② 森林経営管理制度を活用した意向調査結果等の活用
 - ③ 区域調査のエリアの拡大及び計画的な調査箇所の設定
- ・ 森林整備事業を実施する森林組合等の労働力が減少しているため、計画的な調査業務実施による森林整備の早期発注及び労働力の調整を可能とする工期の確保を図ります。
 - ・ 道から200メートル以内であっても、傾斜が急などの理由で林業経営が成り立たず放置されている森林や、施業履歴が15年未満であっても下層植生がなく、災害のおそれがある森林があるため、事業の採択要件について見直しを行います。

7 評価検証委員会の意見



Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進

1 概要

● 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」を運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジン等による情報の収集・発信や刈払機の取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出し、森林ボランティア体験会の開催など、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施します。

また、「森林ボランティア体験会」や「ボランティア交流会」の開催、市町村提案型事業等への講師・コーディネーターの派遣業務等を実施します。

● 森林環境教育の推進

新たな「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや市町村提案型事業(森林環境教育)、緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育を推進します。

2 実施状況

【平成30年度の実績】

14,084千円

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターの運営
- ・専用ホームページ「モリノワ」の運用
- ・情報誌「モリノワ」、メールマガジンの発行
- ・森林整備作業用の機械・器具の貸出し：72回
- ・安全講習会の開催 開催回数：10回
参加人数：146名
- ・森林ボランティア体験会の開催：3回開催
- ・森林ボランティア交流会の開催：1回開催

○森林環境教育の推進

- ・緑のインタープリター養成講座の開催
12回(養成者数25名)
- ・緑のインタープリター登録者数：133名
- ・フォローアップ研修 開催回数：3回
- ・森林環境教育コーディネーター派遣：5名



3 成果

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターを運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジンなどによる情報発信や刈払機取り扱いなどの安全研修、森林整備作業器具の貸出、ボランティア体験会・ボランティア交流会などを実施し、森林ボランティア団体の活動を支援しました。
- ・平成30年度末の森林ボランティア団体数は91団体、会員数5,318人(緑化推進課調査)と増加傾向にあります。

○森林環境教育の推進

- ・現地研修や講師実習など実践的なカリキュラムを含め年12回の講座を開催し、新たに25名の「緑のインタープリター」を養成しました。
- ・新たに開始した「緑のインタープリター活動登録制度」により133名が活動登録し、着実に増加しています。
- ・登録した緑のインタープリターは、市町村提案型事業(森林環境教育)や出前授業の「小・中学生のためのフォレストリースクール」の講師など多方面で活動を行いました。
- ・市町村提案型事業(森林環境教育)を円滑かつ効果的に運営するため、「森林環境教育コーディネーター」を派遣しました。

4 課題・方向性

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア団体のメンバーの固定化、高齢化が進んでおり、新規参入者の確保及び活動の広がりが課題となっています。

このため、森林ボランティア支援センターのホームページ、情報誌やメールマガジン等を充実し、各団体の活動のPRを進めるとともに、森林ボランティア体験会の開催により新規参入者の確保につなげます。

○森林環境教育の推進

- ・森林環境教育の参加者増加等の社会情勢を反映し、フォレストリースクールや市町村提案型事業(森林環境教育)、森のようちえんなどの幼少期教育への対応、社員研修などの社会人教育などへの対応等、広範なニーズに対応するため、より広範かつ専門的な知識・ノウハウのある指導者の養成、資質の向上を図る必要があります。

5 評価検証委員会の意見

Ⅲ 市町村提案型事業（市町村補助）

1 概要

● 荒廃した里山・平地林の整備

市町村と地域住民や NPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。

● 貴重な自然環境の保護・保全

市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種(約650種)が生息している地域の保護・保全活動を支援します。

● 森林環境教育・普及啓発

児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。

森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。

● 森林の公有林化

水源地域の森林や平地林の購入(公有林化)あるいは平地林を造成しようとする市町村を支援します。

● 独自提案事業

ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

2 実施状況

【平成30年度の実績】

185,770千円

(1) 平成29年度繰越

・平成29年度事業のうち、以下の事業については繰越により平成30年度に実施しました。

	繰越			完了			事業量	廃止		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	3	9	3,532	3	9	2,512	森林 0.7ha 竹林 0.2ha	—	—	—
貴重な自然環境の保護・保全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森林の公有林化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
独自提案事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	3	9	3,532	3	9	2,512				

(2) 平成30年度採択状況

・平成30年度は以下の事業を採択しました。

	計			事業計画量
	市町村数	事業数	補助金額 (千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	27	275	254,612	森林 58ha、竹林 40ha、管理 253ha
貴重な自然環境の保護・保全	11	23	5,347	動物 12種、植物 32種
森林環境教育・普及啓発	19	40	20,210	覚満淵等での自然観察会
森林の公有林化	0	0	0	
独自提案事業	2	2	3,412	竹林 0.5ha ほか
合計	35	340	283,581	

(3) 平成30年度事業実績

・平成30年度は以下の事業を実施しました。

	完了			事業量	参考:繰越			(廃止)		
	市町村数	事業数	補助金額 (千円)		市町村数	事業数	補助金額 (千円)	市町村数	事業数	補助金額 (千円)
荒廃した里山・平地林の整備	27	233	160,015	森林 39.0ha 竹林 21.9ha 管理 239.1ha	5	17	34,260	10	25	25,906
貴重な自然環境の保護・保全	11	23	4,568	動物 12種 植物 32種	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	18	39	17,703	10,794人	—	—	—	1	1	277
森林の公有林化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
独自提案事業	2	2	972	森林・竹林 1.5ha	—	—	—	—	—	—
合計	35	297	183,258		5	17	34,260	11	26	26,183

・市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（中之条町）

・市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（みなかみ町）



貴重な自然環境の保護・保全（みどり市）



貴重な自然環境の保護・保全（前橋市）



森林環境教育・普及啓発（太田市）



森林環境教育・普及啓発（館林市）



独自提案事業（高崎市）



3 成果

- ・ 継続した活動に新たな取り組みが加わり、平成30年度(平成29年度繰越を含む)は県内全市町村(35市町村・306事業)で取り組みが行われました。
- ・ 荒廃した森林や竹林に里山・平地林整備や独自提案事業を活用して、野生獣の出没抑制、生活道路や通学路の見通しの確保等が図られ、地域住民の安心・安全な生活環境の改善が図られました。
- ・ 自然環境の保護・保全については、貴重な動植物の生息環境を整備するため刈り払いや伐採等を行い、44種の希少種の保護を図りました。
- ・ 森林環境教育の参加者については、10,000人台を確保し、地域の特徴に合わせた様々な森林環境教育を行いました。
- ・ 事業の普及に努めた結果、平成31年度においても350箇所の事業計画書が提出され、平成31年3月に開催された評価検証委員会において、承認されました。

4 課題・方向性

- ・ 地域によっては人口減少や高齢化等の進行により、下刈り等の管理作業の実施も困難となっているところもあるため、整備後の管理への負担軽減に向けて、委託による実施も可能とする等の見直しを行います。
- ・ 活動する団体から、事業評価アンケートなど事務の簡素化が求められているため、見直しに向けた検討を行います。
- ・ 里山地域での事業が多く、平地林の整備活動を促進する必要があります。
- ・ 新たな事業となるふれあい事業では、より身近な環境で、森林へのふれあいの機会を増やしていきます。
- ・ 地域毎の森林環境の課題把握に努め、幅広く活動を支援できるように検討します。
- ・ 地域との連携を深め、適切かつ効率的な事業を執行するため、地域機関での対応に移行します。

5 評価検証委員会の意見

IV 制度運営

1 概要

● 普及啓発

ぐんま緑の県民税への理解を深めるため、税のしくみ、森林の役割や大切さの普及啓発活動を実施します。

● 評価検証

事業の内容検討・実績評価・効果検証などを行う「ぐんま緑の県民税評価検証委員会」を運営します。

事業の客観的な効果検証を行うために必要な県の林業試験場による調査・分析を実施します。

2 実施状況

【平成30年度の実績】

3,318千円

○普及啓発

【平成30年度の実績】

1,696千円

- ・ 普及啓発用マグネットの作成(3,000個)
- ・ 普及啓発用クリアファイルの作成(1,000個)
- ・ 普及啓発用のぼり旗の作成(10枚)
- ・ 子供向けパンフレットの増刷(1,000部)
- ・ 広報媒体を利用した普及啓発(県HP、イベント出展等)
- ・ 本事業による整備箇所を見学するバスツアーの実施(3回・91人)
- ・ 納税通知書に同封するチラシの作成



のぼり旗



バスツアー



イベントへの出展



○評価検証（評価検証委員会の運営）

【平成30年度の実績】

437千円

- ・ 評価検証委員会の開催(6回)
 - 1回目:平成30年 5月22日 ……県庁7階 審議会室 13:30～15:00
 - 2回目:平成30年 6月14日 ……県庁29階第1特別会議室 13:30～15:00
 - 3回目:平成30年 6月21日 ……書面開催
 - 4回目:平成30年 7月18日 ……県庁7階 審議会室 13:30～15:10
 - 5回目:平成30年10月 1日 ……書面開催
 - 6回目:平成31年 3月20日 ……県庁29階第1特別会議室 14:00～15:50

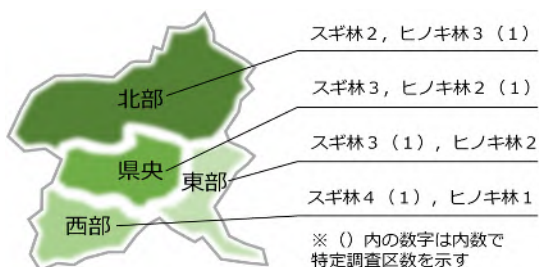


○評価検証（調査分）

【平成30年度の実績】

1,185千円

- ・ 水源地域等の森林整備事業地を対象に間伐の実施による事業効果の判定
- ・ 県内20箇所に設定した調査対象地の追跡調査を実施
(相対照度測定・植生調査・植被率調査)



調査地の内訳

調査項目	通常区	特定調査区
毎木調査		○
照度	○	○
植被率	○	○
植生乾燥重		○
土壌断面		○
植生調査	○	○



相対照度測定の様子



植生調査

植被率調査

3 成果

○普及啓発

- ・ ぐんま緑の県民基金を広く普及啓発するため、小学生を対象とした子供向けパンフレットの増刷、普及啓発用マグネットの作成、各種メディア媒体を活用した広報活動の実施、また、県民税を使った森林整備箇所を見学するバスツアーを実施したほか、各種イベントにおいても事業のPRを行い、県民税の趣旨や事業内容などの理解の促進を図りました。

○評価検証（評価検証委員会の運営）

- ・ 6回の評価検証委員会を開催し、平成30年度に実施する340事業の採択などを行い、議事の内容や審議結果を公表しました。

○評価検証（調査分析）

- ・ 20箇所の水源地域等の森林整備事業地を対象とし、間伐実施後の森林の状況を調査し、調査分析に必要となる情報の収集を実施しました。

4 課題・方向性

○普及啓発

- ・ 県民が事業の成果やその効果について理解を深めるために、引き続き、県民を対象としたイベントや広報誌、各種メディア媒体を活用し効果的な広報活動に努めます。

○評価検証（評価検証委員会の運営）

- ・ 事業実施箇所の現地調査を取り入れながら、事業の検証や評価、助言を通して、明らかになった課題の解決に努めます。

○評価検証（調査分析）

- ・ 間伐実施後の調査地のデータを確実に収集し、適切な調査分析を実施します。

5 評価検証委員会の意見

V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿

(五十音順 敬称略)

氏名	職業・役職等	備考	
飯塚 哲也	高山村副村長	山地代表市町村	(H29.11.21～)
市川 多恵子	森林所有者	森林・林業関係者	
小井土 登喜司	森林所有者	森林・林業関係者	
小山 定男	館林市副市長	平地林代表市町村	
高草木 悟	連合群馬事務局長	納税者 (労働団体)	
西岡 喬	太田商工会議所 副会頭	納税者(経済団体)	
西野 寿章	高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科教授	学識経験者 (森林環境保全)	委員長
松本 勉枝	群馬県生活協同組合 連合会 女性協議会会長	納税者 (消費者団体)	
宮地 由高	群馬NPO協議会 相談役	学識経験者 (NPO・ボランティア活動)	委員長代理

(任期 : 平成29年4月1日 ~ 平成31年3月31日)



ぐんま緑の県民基金事業 平成30年度 実施報告書

- この実施報告書に関するお問い合わせ先
群馬県森林環境部緑化推進課緑化推進係
〒371-8570群馬県前橋市大手町1-1-1
Tel:027-226-3278 Fax:027-223-0463
E-mail: gm-zei@pref.gunma.lg.jp
- ぐんま緑の県民税ホームページ
<http://www.pref.gunma.jp/04/e3000101.html>